

## 10 部落差別の今を伝える（同和問題）

（ナレーター）皆さん、いかがお過ごしですか。福岡市がお送りする「こころのオルゴール」の時間です。今日は私、徳永玲子がお届けします。今日のタイトルは「部落差別の今を伝える」です。

差別解消の取り組みは、過去に行われた特別対策事業などによつて、大きく前進しました。しかし、今もインターネッ  
ト上で部落に関する悪質な投稿が行われるなど、課題が生じています。

山口県人権啓発センターの事務局長・川口泰司さんは、愛媛県の被差別部落出身であることを公表し、今も残る部落差別について伝えていきます。

【川口さん役】全国各地で講演をしていると、「部落差別って、今も本当にあるんですか？」とよく聞かれますが、差別は見ようとしないと見えません。ネットを悪用した人権侵害はひどくなっているのが現状です。

20 部落の地名や個人情報が一方向的にさらされ、「部落は怖いところだから近づかないほうがいい」など、デマや偏見に満ちた書き込みも行われています。

25

私自身も住所や名前をさらされ、身の危険を感じました。  
2017年の正月、差出人の名前がない年賀状が自宅に届き、小学5年生の娘が「パパ、これ何？」と聞いてきました。そこには私たち被差別部落出身者の存在を否定する言葉が書いてあったのです。頭が真っ白になり、胸が張り裂けそうでした。最初に娘が見てしまったことを、心から悔やみました。

30

その後、中学3年生になった娘は、同和問題をテーマにした人権作文をみんなの前で発表しました。年賀状の話になると、涙で言葉が詰まりました。そのとき、「がんばれ」「大丈夫だよ」と、友達が次々と声を上げてくれたんです。娘はみんなに支えられ、自分の思いを伝えることができました。

35

ネット上で悪意を持って差別投稿を行うのは一握りの人ですが、情報は拡散されてエスカレートしていきます。こうした状況を止めるには、皆さんの声が大きな力になります。私が初めて同和問題のテレビに出演したとき、番組自体は好評でしたが、ネット上は否定的なコメントであふれました。しかし、その後、知人たちが応援コメントをしてくれるようになり、状況が逆転してきています。

40

差別を許さない生き方を選び、叩かれている人がいたら「大丈夫か」と寄り添う。そんなかっこいい人をもっともつと増やしていきたいです。

45

(本文926字)